



「チームたかしま便り」 ～高島市の医療、介護、福祉に携わる皆様とともに～

第6号
2026. 1 発行

新しい年を迎え、明るく穏やかな一年となることを願います。

高島市の医療、介護、福祉、保健等に関わってくださっている多くの皆様とともに「チームたかしま」が一丸となって、市民の皆さんの望む暮らしを応援できるように、取り組みをすすめていきたいと思っています。
関係者の皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

「第 157 回 高島市医療連携ネットワーク運営協議会」 11.6 開催

「“DNAR” ～命の現場と意思決定～」

高島市消防本部 警防課
救急救命士 兼田 知育氏



高島市消防本部について

- ・消防本部と北部消防署、南部消防署、朽木分遣所、マキノ救急分遣所で構成されている
- ・各消防署に救急車がそれぞれあり、4台を所有し、活動している
- ・消防職員は 102 名で、そのうち救急救命士の有資格者は 36 名で、23 名が活動している
- ・救急救命士は、心臓マッサージや人工呼吸、AED を使った電気ショック、心肺停止の状態の方に対しては、乳酸リンゲル液の点滴、静脈の確保、点滴等を行うことができる
気道確保のための気管チューブを用いた気管挿管、食道閉鎖式のチューブを使った送管
ショック状態の方に対する輸液、血糖測定やブドウ糖の投与等ができる
- ・**緊急出動件数は増加し、大きな課題**になっている
令和 6 年 今まで最多の 3,280 件 一日あたり大体 9 件位の出動 半数は軽症

「DNAR」とは、

患者本人または患者の利益にかかわる代理者の意思決定をうけて心肺蘇生法をおこなわないこと

・「DNAR」の対応も課題

救急隊の活動と DNAR というのは、性質的に相反するもの

救急車を呼ぶということは、あらゆる手段を用いて、全力で命を救ってほしい…という意思表示である
しかし、DNAR の意思表示があると活動に苦慮することになる

<意見交換> 各消防署から救急救命士が 6 名も参加してくださり、活発な意見交換ができました

対応に苦慮した事例も教えていただき、各グループで意思表示の確認や突発的な事故の場合の対応、看取りの体制などについて、意見交換を行いました

- ・介護者は何もしなくてもよいと思っても、周りの方の中には別の考えがあることもある
窓口の統一や意思の共有が必要
- ・古い情報のままで、意思が更新されていないこともある
- ・突発的なことに関しては、蘇生はしないといけないのではないかな
- ・看取りの体制はできている。施設でも看取りをしている
- ・「命のバトン」や「たかしまマイウェイノート」を活用できるとよい



今後の取り組みに向けて

本人の意思を尊重した対応、看取る体制の構築がさらに必要
介護関係の在宅部会、施設部会等で意見交換をしていくことも検討を要する
施設のマニュアル等の見直し

命の現場では、大変厳しい現実がありました

急いで救命し大切な命を守り抜かなければならない現場があります

在宅や施設等で穏やかに最期を迎え、命を終える人もあります

本人の意思を尊重し、関わる全ての人がどのように支援、対応するのかをしっかりと認識し体制を整える必要があります
これまでの経験を踏まえ、連携していくことの重要性を新たにしました

「落語で笑って学ぼう！笑エンディングノート」^エ 在宅療養講演会 12.13 開催



創作落語「天国からの手紙」 講演「エンディングノート」について

講師：生島 清身氏
行政書士・社会人落語家 天神亭きよ美

創作落語では…

3人の子どもに看取ってもらった母であったが、あの世とこの世の境で、案内人に遺言書が大事なことを教えてもらう。遺言書が無ければ揉める…

講演では…

エンディングノートは、後悔しないよう「自分らしく生きる」ために活用できる人生と向き合い、自分自身を見つめなおすきっかけにする

<参加された方の声>アンケートより 一部をご紹介します

- ・創作落語が大変わかりやすく、自分の人生を考えるチャンスをいただいた。
- ・学びがあった。エンディングノートの必要性が理解できた。
- ・「自分らしく生きる。生ききる」ことに向き合うことが大切と感じた。
- ・エンディングノートを書くことの有効性について、自分らしい人生のために、自分のことをデザインしていく。
- ・思っているだけでは伝わらない。本当にその通りだと思った。あと残りの人生 悔いのないようにしたいです。
- ・最後にひとり一人思いが違うという事が分かった。
- ・終活というより、今をより良く生きるために重要なノートになりそうだと思います。
- ・マイナスイメージのものではなく、ポジティブなものと考えが変わった。…等

参加者数：106名 ノート配布数：124冊

高島市オリジナルのエンディングノート「たかしまマイウェイノート」を市民の皆さんに知っていただく良い機会となりました。
ノートを活用して、これからも前向きに人生を歩んでいただけることを願います。



【今後の予定】

「多職種連携セミナー」

「第160回高島市医療連携ネットワーク運営協議会」

日時：2026年 2月 14日（土） 午後 3時～5時

会場：今津サンブリッジホテル 2階サンブリッジホール

テーマ：「総合診療医の養成と在宅医療 ～竜王町で行っていること～」

講師：雨森 正記先生

医療法人滋賀家庭医療学センター・弓削メディカルクリニック 理事長

一般社団法人滋賀県医師会 理事

日本プライマリ・ケア連合学会滋賀県支部 支部長

対象：医療や介護、福祉、保健等の関係者

お待ちしております



～「たかしまマイウェイノート」を活用してください～

これまでの振り返り、これからの生き方、好きなこと、やりたいこと、もしもの時を記すノートです
ひとり一人の思いを知る手掛かりとして、大切なことを確認する手立てとして ご活用ください



【お問合せ先】<事務局> 高島市医師会 在宅療養支援センター
〒520-1121 高島市勝野 1667 高島市民病院内
TEL:0740-20-9005 FAX:0740-20-9006